

2026 年 8 月 3 日

固形腫瘍に対するネオアンチゲン感作樹状細胞ワクチンの安全性・有効性に 関する論文が学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団湊志会 瀬田クリニック東京は、共同研究機関とともに実施中の進行固形がん患者を対象とした個別化ネオアンチゲン樹状細胞 (Neo-DC) ワクチン療法の安全性と有効性に関する臨床研究の中間解析を行い、その成果が国際医学誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします(*1)。

本研究では、患者さん一人ひとりの腫瘍に存在する遺伝子変異 (ネオアンチゲン) を次世代シーケンサーで解析し、その患者さん専用の樹状細胞ワクチンを作製・投与しました。解析対象となった 27 例では、重篤な治療関連副作用は認められず、安全性は良好でした。また、病勢が進行せず維持できた患者さん (病勢コントロール率) は 44.4% であり、解析時点では全生存期間中央値には到達していませんでした。さらに、免疫解析では、がん免疫を抑制すると考えられている制御性 T 細胞 (Regulatory T cells: Treg) が有意に減少しており、本治療が腫瘍免疫環境を改善する可能性が示されました。本研究は中間解析であり、症例数にも限られていますが、個別化がん免疫療法の安全性と有望な治療効果を示す結果となりました。今後さらに症例を蓄積し、本治療の有効性を検証してまいります。

[今回の報告内容]

- 進行固形がん患者を対象とした個別化ネオアンチゲン樹状細胞ワクチン療法の中間解析をおこないました。
- 患者さんごとの遺伝子変異 (ネオアンチゲン) を解析し、オーダーメイドの免疫細胞療法を実施しました。
- 2025 年 11 月末までの登録症例は 36 例で、治療を実施できた 27 例を解析対象としました。
- Grade2 以上の治療関連副作用は認められず、安全性は良好でした。
- 病勢コントロール率 (CR+PR+SD) は 44.4% でした。
- 生存期間中央値は解析時点で未到達でした。
- 制御性 T 細胞 (Treg) が有意に減少し、免疫抑制環境の改善が示唆されました
- 今後はさらに症例数を増やし、有効性を前向き試験 (*2) で検証予定です。

今回の研究では、患者さんごとの遺伝子変異に合わせて作製する個別化ネオアンチゲン樹状細胞ワクチン療法が、高い安全性を示すとともに、進行固形がんに対して有望な治療効果を示す可能性が確認されました。特に、がん免疫を抑制する制御性 T 細胞の減少が認められ、本治療が免疫環境を改善することが示唆されました。

本研究は中間解析であり、現時点で有効性を最終的に結論づけるものではありません。しかし、安全性を確認しながら臨床的有効性が期待できる結果が得られたことは、今後の個別化がん免疫療法の発展

に向けた重要な一歩であると考えています。

瀬田クリニックグループでは、悪性腫瘍に対する種々の樹状細胞ワクチン療法を実施しています。
詳細は下記よりご覧いただけます。

<https://www.j-immunother.com/therapy/kind/dc>

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ：

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393

URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Safety and Preliminary Efficacy of Personalized Neoantigen-pulsed Dendritic Cell Vaccination in Patients With Solid Tumors: An Interim Analysis

Anticancer Research August 2026, 46 (8) 4699-4706; DOI: <https://doi.org/10.21873/anticancerres.18326>

(*2) 悪性腫瘍に対するネオアンチゲン由来ペプチド感作樹状細胞ワクチン療法の探索的臨床研究 (jRCTc030190182)

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現：瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で24,700名を超える患者さんに治療を提供しています(2026年6月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現：臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。